

## 「御会式の意義・折伏と育成の大事」

- 1、 10月13日は日蓮大聖人様の御入滅の月であり、その御報恩の法要を御会式(総本山での儀式は特別に御大会という。)と言います。世間一般には、偉人賢人の命日に対して、故人を偲び、あるいは称え、追善供養することが主旨ですが、当宗の御会式の意義はまったく違い、誠に深い意義があります。

「法華経寿量品自我偈」に

**衆生を度せんが為の故に、方便して涅槃を現ず、而も実には滅度せず、常に此に住して法を説く(開結439)**

と説かれますように、仏様は本来、常住であるものの、入滅の相を示され、衆生に怠け心を捨てさせ、求道心を植え付け成仏に導かれるのです。同様に日蓮大聖人の入滅は、滅にして滅に非ざる滅、つまり非滅現滅の相を示すものなのです。本宗の御会式は、この日蓮大聖人の非滅の滅、すなわち御命日に対し奉る御報恩の意味を含むとともに、非生の生、すなわち常にこの娑婆世界に在して説法し、私達衆生を教化される御本仏日蓮大聖人の末法出現をお祝い申し上げる儀式なのであります。

- 2、 この御会式は年間を通して一番大事な法要ですので、当日に真心込めた御供養を申し上げる事はもちろん大切ですが、いろいろな準備もまた必要です。したがって御会式は、ただ参詣すれば良いというものではありません。準備の段階から少しでもお手伝いをしていこうという心がけが大切です。

例えば、御存知のように普段、しきみしか飾らない御宝前に桜の花をお飾りしますが、その意義は、日蓮大聖人が御入滅の時に、大地が振動し秋にもかかわらず時ならぬ桜の花が咲いた事によるものです。そのお花一枚一枚を造ることも大きなお手伝いで、御報恩です。また、一人でも多くの同志に伝えること。法要に誘うこと。法要の前のお掃除に参加すること。あるいは、法要に参詣できるように毎日勤行で、しっかり御祈念していくことなど。ただ、御会式の日を漠然と迎えるのではなく、心の準備をしていくことが大切です。

- 3、 日蓮大聖人は『百六箇抄』に、

法自づから弘まらず、人、法を弘むるが故に人法ともに尊し(御書1687頁)

と御教示です。成仏を遂げる真実の幸福の大直道である下種仏法も、それを修行して弘めるのは人であり、人が何もせずして仏法が弘まることはありません。そして下種の仏法を弘める道は折伏であります。つまり、折伏する人は、下種仏法を弘める人であり、仏法と同様に尊い人であり、そして自らが折伏に励むだけでなく、周囲に折伏する人を大勢育てることが仏道修行の重要事なのです。

私たちの信仰から考えますと、人々に御本尊様の功德を教え、自他共に功德を得ていくことが大切なのです。しかし、折伏をして、御授戒を受けさせても、何も教えずに放置すれば、当人は正しい信仰の大事を知ることなく、やがては謗法の罪障を積んで、その大苦悩を受けることとなります。それでは本当に無慈悲であります。講中の人々を正しい信仰に導くことは、ひとり一人に自行化他の信心修行をしっかりと教えて育成することであり、

御法主日如上人猥下は、その心構えについて、

折伏したら、その折伏された人が折伏できるように育てることが大事であります。折伏しても、何も教えないのは慈悲に欠け、無責任の極みであります。折伏した人が、広布の戦士として折伏できるようにすることは、未

来広布にとって極めて大事なことで、もしこれを怠れば講中は衰退をいたします。そもそも、折伏と育成は共に化他行であります。申すまでもなく、自行とは勤行と唱題であり、化他行とは折伏と育成であります。したがって、共に化他行である折伏と育成は、どちらが欠けても片寄った信心となり、これでは強い講中は生まれません。また大事な目標も達成できません。(御指南集10-85頁)

と、「折伏できるように育てる」ことの大切さを御指南されております。折伏できる人は、自ら毎日の勤行・唱題に励み、所属寺院の御報恩御講に参詣し、法要や各種行事に参加する人でもあると思います。私たちは御授戒を受けたあと、新入信者が広宣流布の人材となるよう細やかな心配りをもって、育成に努めなくてはなりません。「育成」という言葉は色々な意味に考えられますが、中でも「折伏を成就する人に育てる」ことが大切なのです。

- 4, それではどのように折伏する人を育てて行けば良いのでしょうか。紹介者(教化親)や講員の方々、その方規として、下記の七項目を念頭において、新入信者の方を激励して頂きたいと思います。

①「信心できた喜びを伝えたい方はいませんか？」と尋ねる。 ②名前(下種先)をお聞きする。 ③下種先に新入講者をお連れして一緒に折伏に行く。 ④折伏の現場では私達(紹介者・講員)が折伏し、新入講者にはその姿を見て頂く。 ⑤何度か繰り返す内に新入講者も進んで折伏するようになる。 ⑥折伏では、不快な思いや悔しい思いをすることもあるが、成就した時には、日蓮大聖人の教えを認めてくれた喜びと御本尊のお使いを果たしたという喜びが湧く。 ⑦自分が関わった(行った)折伏が成就すると自信がつく。

(平成28年度法華講夏期講習会テキスト40頁)

また、育成の心構えとして、折伏の紹介者(教化親)や講員の方々は新入信者の方に、

①常に声をかける。 ②常に一緒に動く(唱題会・折伏・家庭訪問等、行動を共にする)。 ③実際に行動し現場で学んで頂く。(平成28年夏期講習会テキスト41頁)

以上の3点を実践して頂きたいと思います。

- 5, また日蓮正宗の寺院、布教所等は、国状の異なる様々な国々に建立されています。故に、その国の事情を鑑みて布教に励むことが大切です。その中であって、指導教師である各国の住職・主管は、海外部の指導のもと、誠意をもって御法主上人の御指南を実行しております。所属の御信徒の皆様方は、指導教師であり手続の師匠である住職・主管・責任者の指導と方針のもとに、異体同心一致団結してご精進頂きたいと思います。

日蓮正宗法華講は、個々が自分個人の考えが正しいと主張し、我意我見の方向に進めようとする盲目的な組織であってはなりません。我意我見は、御本仏日蓮大聖人の御意でも、成仏の道でもありません。むしろ三悪道に墮ちる危険な道なのであります。日蓮正宗法華講は、日蓮大聖人の御金言と時の御法主上人の御指南を絶対の根幹に据え、僧俗一致・異体同心の精神を以って広宣流布の大願成就に前進する大使命をもった組織であります。

折伏と育成が一体の化他行をもって広布へ向けて行動を起こせば、日蓮大聖人の御金言の如く、それを阻止する障魔が競い起こることでしょう。だからこそ、折伏・育成には日々の勤行と唱題を欠かしてはなりません。

日蓮大聖人は『御義口伝』に、

南無妙法蓮華経は大歓喜の中の大歓喜なり(御書1801頁)

と仰せです。唱題による大歓喜をもって障魔を乗り越え、折伏・育成に精進し、2021年宗祖日蓮大聖人御聖誕800年法華講員80万人体勢構築に向かって頑張りましょう。本日は御参詣大変御苦勞様でございました。